



迎春



國際化前結婚式

大晦日～元旦 0時～2時 うどん接待		楽しい会陽行事	
元 旦 0時・10時・14時	2・3日 10時・14時	開運初護摩供奉修	2月16日(土) 会 陽
1月14日 9時～		おかげりはやし	2月17日(日) 後まつり
			2月23日(土) 宝来春
			2月24日(日) 宝来春・稚児行列
			3月3日(日) 大柴燈護摩

として取り込みました。お釈迦さまは「内に怒ることなく、世の榮枯盛衰を超えた修行者はこの世と、次の世をともに捨ててゐる。あたかも蛇が古い皮を脱皮して捨てるようなものである」と、蛇を神聖なる動物として例えられています。また日本でも時として神として崇められ、頭上に蛇体を頂く弁才天は弁財天に変化し、財福や学問のご利益がある弁天さまとして、広く親しまれています。

尖閣問題で揺れる最中、反日デモや暴動の多発する西安を訪れました。日本語のガイドさんから、「今回の事件は一部の暴走であるとはいえ恥ずかしい。中国は経済的には発展したが、精神面では日本に三十年立ち遅れている」との発言があつた

のが印象的でした。しかし現実には日本は傷つき病んでいます。政治も経済も暗い影を落とし、自殺者は年間三人万人を超えていました。報恩の一語を忘れた自己チュウが大繁殖。犯罪は凶悪化し、大人も絡んだいじめが後を絶ちません。政局が混沌とする中、ある党は独自色を出すために「中道」を柱に据えるそうで、仏教徒としては誠に喜ばしい限りです。お釈迦さまは宮殿の華やかな生活を捨て、六年に及ぶ筆舌に尽くし難い苦行でも悟りに至らず、中道によつて絶対的な悟りを得られたのですから…歴史的に栄枯盛衰は幾度となく繰り返されてきましたが、先人の苦難の結晶として現在の日本が存在し、その中で私たちは生きかっています。いま真の先進国となるために中道の意味をしつかり咀嚼し、私たち一人一人がもつと他を尊重し思いやる事が出来れば、それだけで未来は明るくなります。

もうお正月です。正月は古くはお盆と同様に先祖をお迎えし、供養する行事でもあります。ご先祖と語らい、また一つ、脱皮の道筋が見える年となりますようお祈りいたします。



五百年以上の歴史を持つ伝統の裸祭り『西大寺会陽』。今から二十数年前から参加するようになり、一度も欠かす事なく今に至ります。

初めて会陽に参加した際、仁王門をくぐり境内に入った時、九千人の裸群の光景と感じた事のない高揚感は、今でも強烈に覚えています。

二月の寒い時期の会陽、痛い、危ない、当初は正直そういう風に会陽の事を考えていました。しかし家庭を築き、家族ができ、仲間と会陽に参加する事で、思いが変わつていつたように思います。今では、福を授かるうと仲間と月に一度の練習、お寺の清掃奉仕作業、その他の行事にも歓んで出るようになります。これからは、自分が生まれ育った街の伝統ある西大寺会陽を後の世代に引き

戦前までの西川は、澄んだ水が流れ、川底一面にいっぱい藻が生えて、たにし、からす貝や魚のすみかになつていました。

六月上旬には、川岸の柳や草むらに蛍が飛びかいホタルがごとくとりに行つたものです。

川が干上がる子供達は、かけじと網を持って川に入り石がけの穴をさぐり、うなぎやなまけをひつかけたりふなやにごいを追いかけて遊びました。ブルのなかつた昔は、西川が子供達の水泳場でした。

学校から待ちに待つ水泳の許しが出ると、みんな一斉に川

井川に泳ぎにいきました。夏の夕方は夕涼み。大人も子供もうちわを持つて石橋の上に集まり、いつちよう口に腰かけ、川風にふかれながら大人は世間話、子供達はそばで線香花火をして遊びました。

西川（土蔵は西大寺文化資料館）

編 集 後 記

用けまして おめでとうございます。

東日本の震災から3月で2年の歳月が流れます。津波の被害地・原発被害地の皆さん、どのような思いで新しい年を迎えたのでしょうか。遠く岡山に居ても分かります。政治の対応の鈍感さ他人事の政策、見ていて腹がたち胸が痛みます。

仏教の言葉に和顔施（わがんせ）と言う言葉があります。思いやりの心をお布施することです。一期一会の気持ちで笑顔で人と接すればお互い楽しい心が沸いてくるものです。

早く東日本の皆さんのが明るい笑顔が見たいものです。
今年の初詣は家族一緒に明るい笑顔の和顔施を届けに観音院に足を運んで見ては如何でしょう。

楽しい奉仕あれこれ

冬	う	ど	ん	接	待
春	楠	木	落	葉	か
夏	灯	ろ	う	作	り
	とう	ぱ	き(水	まつり)	
秋	塔	婆	書		
	だい	ば	き		
	れい	しょ			
	だい	り	etc.		

お気持ちのある方は
TEL 942-2058 観音院

